

小児がん経験者の 心身のリハビリテーション

シンポジウム

- 「小児がん経験者の活動と社会参加について考える」

上出 杏里 (国立成育医療研究センターリハビリテーション科・発達評価支援室)

- 「心のリハビリ・心の回復」

吉野 美緒 (日本医科大学付属病院小児科 臨床心理士・公認心理師)

- 「経験者から」

寺島 大貴 (若年性がん患者団体 STAND UP!! 運営委員)

- 「つながりが力になる

— 小児がん経験者の心と体のリハビリと地域を越えた出会い」

三上 昌来 (京都第一酒造有限会社代表取締役・レモネードスタンド事業部代表)

司会：前田美穂・岩井艶子 (子どもと家族のQOL研究センター)



日時

2025. **11.2** (日) 13:30～16:00

会場

Zoomオンライン開催 (予約制)

協賛：



中外製薬

ロシュ グループ

sanofi

開催概要

小児がんの治療には半年から1年ほどの長期入院が必要です。限られた入院環境の中で身体活動が低下したり、不安や恐怖などの心理的ストレスを感じたりしています。そのために退院後の社会生活に支障をきたす小児がん患者さんもいます。脳腫瘍や骨肉腫などの固形腫瘍で手術療法を受けた場合はもちろんのこと、そうでない場合にも、早期からのリハビリテーション介入が重要です。今回のシンポジウムでは、身体面からと心理面からのリハビリテーション介入に関するご講演を企画いたしました。小児ではリハビリテーションはまだ整備途中と思いますが、小児がん患者のリハビリテーションの現状を知ることができるよい機会だと思います。みなさまもご参加いただき、一緒に考えていただけたらと思います。ご参加お待ちしております。

シンポジスト

● 上出 杏里（国立成育医療研究センターリハビリテーション科・発達評価支援室）

東京女子医科大学卒業後、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座へ入局。国立障害者リハビリテーションセンターリハビリテーション科医長を経て、国立成育医療研究センターリハビリテーション科診療部長、発達評価支援室長、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座准教授として現在に至る。日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ医として、ロンドン・東京・パリパラリンピック競技大会日本代表選手団本部への帯同歴があり、障害児・病児らのスポーツを介した社会参加の取り組みを行っている。

● 吉野 美緒（日本医科大学付属病院小児科 臨床心理士・公認心理師）

早稲田大学教育学部卒業後、同大学大学院教育学研究科修士課程修了。専攻は発達心理学・臨床心理学。2009年～日本医科大学付属病院小児科で、入院中の患児・家族の心理療法を行うとともに、外来で小児がん経験者の心理療法を実施している。



● 寺島 大貴（若年性がん患者団体 STAND UP!! 運営委員）

1994年生まれ。中学卒業前に骨肉腫を発症し右膝人工関節手術を受ける。一時院内学級で学び、その後私立高校へ復学。外来リハビリに通いながら高校生活を送り、医療系大学へ進学。2017年より理学療法士として勤務し現在9年目。がんサバイバーとして啓発活動にも取り組む。



● 三上 昌来（京都第一酒造有限会社代表取締役・レモネードスタンド事業部代表）

小学4年生で髄芽腫と診断された息子の母。手術、放射線、抗がん剤を経て命は助かったが、重い後遺症を抱える。現在はメーカーで海外業務を続けつつ、副業で障がい者が関わるクラフトビール販売や数地でフィンランドマーケットを開催。過酷な入院生活を経験した家族として、マクドナルドハウス京都の建設サポート活動にも関わり、その必要性を広く伝えている。

参加登録

対 象：小児がん経験者やご家族の方、
小児がん経験者を応援している医療者・心理職・保育士・教師・学生の皆さんなど

定 員：100名（先着順）

登録期間：2025年10月6日（月）～ 10月31日（金）17時（予約制）

登録方法：右記QRコード（Peatix：<https://qrccf-2025autumnseminar.peatix.com>）からお申込みください
※ Peatixへの登録が必要です

参 加 費：一般 2,000円／小児がん経験者・ご家族 無料

※ ご寄付も歓迎します。小児がんの啓発事業に活用させていただきます

※ Zoom用URLは、10月31日（金）18時頃にPeatixにてお知らせします



主催：



お問い合わせ：QRCCF事務局へのご連絡は
ご連絡：右記QRコードからお願いします

